

第 13 回日本病理学会カンファレンス 2016 六甲山開催報告

第 13 回日本病理学会カンファレンス 2016 六甲山を 7 月 29 日 (金)、30 日 (土) に兵庫県神戸市六甲山ホテルにて、「間葉系組織分子病理の新展開」をテーマに掲げて開催いたしました。強い夏の日差しの中でも過ごしやすい六甲山頂は、カンファレンスには最適な環境で、病理学会外からの招聘講師 5 名、病理学会会員講師 5 名、一般参加者 93 名の合計 103 名のご参加をいただきました。また、ポスター発表は 42 題とホテル会場を埋め尽くす数となりました。



1. 開催の目的と概要

本カンファレンスは日本病理学会会員、特に若手会員が、臨床家から先端生命科学までの研究者と、十分な討論と交流を行う場を提供するために開催しています。開催テーマは、原則として診断病理に偏らず、少なくない病理学会会員が従事している学術研究に関する基礎から臨床を縦断するようなもので、多数の会員が数年に一度は参加意欲を抱けるようなプログラム選定を目指しています。

今回のテーマである間葉系組織は、その潜在能力や生体内での役割が徐々に解明されてきており、従来の骨・関節疾患や骨・軟部腫瘍のみでなく、癌の間質浸潤・転移機構、組織修復、再生医療などに広範に関与しており、疾患治療への応用など未知なる可能性が指摘されています。また、免疫学など別分野とされてきた領域との密接な関連性もわかってきており、新たな研究領域の創造も進んでいる分野です。

本カンファレンスではこの方面の第一線でご活躍中の先生方にご講演いただき、多くの若手病理医との熱い討論が展開されました。得られた最新の知見をもとに、この分野における病理学的研究はもとより、基礎から臨床へと横断的に医学全体に広がる研究への推進および発展を祈念しております。

ポスターセッションでは、42 題と例年になく多くの演題応募がありました。そのため、例年行われているショートプレゼンテーションの時間確保ができなくなりましたが、各グループ単位では密な議論が展開されていました。ポスター発表は日本病理学会学術推進委員会委員の先生方に評価していただき、最優秀ポスター賞 1 題、優秀ポスター賞 4 題を選考し、カンファレンス閉会式において表彰しました。

今回のレクチャー講師と演題は以下の通りです(敬称略、発表順)

- 田中 栄 東京大学大学院医学系研究科 整形外科学
「破骨細胞分化の分子制御」
- 北澤 荘平 愛媛大学大学院医学系研究科 分子病理学
「破骨細胞形成に関わる間葉系細胞の役割」
- 高柳 広 東京大学大学院医学系研究科 免疫学
「骨免疫学基礎研究の進展」
- 二口 充 名古屋市立大学大学院医学研究科 分子毒性学分野
「骨微小環境における前立腺がんおよび乳がんの増殖機構と 治療標的因子」
- 片岡 寛章 宮崎大学 腫瘍・再生病態学分野
「プロテアーゼ制御機構破綻と癌の間質浸潤」
- 今井 祐記 愛媛大学 プロテオサイエンスセンター
「性ホルモンによる骨代謝制御の分子機構」
- 吉田 利通 三重大学 修復再生病理
「組織リモデリングの微小環境—テネイシン-Cを中心として」
- 志茂 剛 岡山大学大学院医歯薬総合研究科 口腔顎顔面外科学分野
「骨破壊病変と骨格形成因子」
- 戸口 田淳也 京都大学 再生医科学研究所/iPS 細胞研究所
「iPS 細胞由来間葉系間質細胞の基礎研究への応用」
- 田中 伸哉 北海道大学大学院医学研究科 腫瘍病理学分野
「肉腫における cancer stem cell : 滑膜肉腫を中心として」

一般演題ポスター発表は 42 題で、以下の 5 名にポスター賞が授与されました(敬称略)

- 最優秀ポスター賞 榎本 篤 名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍病理学
- 優秀ポスター賞 坂本 直也 広島大学大学院医歯薬保健学研究院 分子病理学
- 優秀ポスター賞 下田 将之 慶応義塾大学医学部 病理学教室
- 優秀ポスター賞 谷川 聖 北海道大学医学研究科 腫瘍病理学分野
- 優秀ポスター賞 湯澤 明夏 旭川医科大学病院 病理部



2. 参加者(103名)の内訳について

【ポスター演題数】

42題

【若手ポスター発表】

21題

【参加人数】

103名(演者10名を含む) + 運営スタッフ4名



3. アンケート集計結果について

【年代別参加者】

※アンケート回収75名(うち1名記載なし)

年代	20代	30代	40代	50代	60代以上
人数	15	28	13	15	3

【都道府県別参加者数】

北海道	3	青森	2	茨木	2
栃木	2	群馬	1	埼玉	2
千葉	2	東京	11	神奈川	1
新潟	2	福井	1	岐阜	1
静岡	1	愛知	13	京都	3
大阪	10	兵庫	12	奈良	4
和歌山	2	鳥取	1	広島	4
山口	1	愛媛	3	高知	1
福岡	12	佐賀	2	熊本	3
宮崎	2	鹿児島	2	沖縄	1

【意見】

- ・プログラム構成、運営等素晴らしかったです。ありがとうございました。
- ・部屋食事など大学ごとだったけど、他大学の方との組み合わせが良かった。
- ・ディスカッサー賞があっても良いと思った。
- ・間葉系の…というテーマだったが、骨に関するレクチャーが非常に多かった。
- ・骨以外の様々な腫瘍や炎症でも間葉系の研究が進んでいるため、もっと広い分野における間葉系のレクチャーを聞きたかった。
- ・間葉系全般で網羅的なレクチャーとするか、若手の興味がありそうな(とっつきやすい)腫瘍をメインとしたレクチャーを多くしていただけたらもう少し若手も参加しやすかったと思う。
- ・メープル六甲にバスローブがなかった点は予めアナウンスしてもらえると良かった。
- ・有意義で楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。
- ・とても楽しく、有意義でした。みなさん温かく受け入れて下さり、また来たいと思いました。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。田中先生の終わりの言葉どおりです。
- ・六甲山ホテル ごはんがおいしい すずしい 続けてほしい
- ・御準備ありがとうございました。
- ・勉強になった
- ・ポスターが多く学術的に興味深かった

【今後取り上げてほしいテーマ】

- ・血管新生
- ・泌尿器がん
- ・発がんエピジェネティクス
- ・人工臓器
- ・cancer metabolome
- ・微小環境
- ・がん幹細胞
- ・がん転移
- ・イメージング
- ・免疫疾患、移植
- ・炎症性疾患
- ・実験計画の立て方、いきづまった時の対処法など
- ・診断と今後の病理の展望
- ・免疫、幹細胞、細胞外マトリックス
- ・乳腺
- ・扁平上皮癌
- ・神経幹細胞
- ・神経疾患
- ・デジタルパソロジー
- ・神経・感染・免疫

4. 総括と今後のカンファレンスへの課題

<参加者>

アンケート結果からは、20 代、30 代の若手参加者が全体の 57%とカンファレンスの趣旨に沿った参加者を得ることができたと考えています。本カンファレンスが専門医試験の受験資格や専門医資格更新の単位として認定されていることもありますが、仮にそういう目的であったとしても、レクチャーや交流を通して実験病理の世界に興味を持つきっかけになれば幸いです。

<レクチャー>

「間葉系組織分子病理の新展開」をテーマに、その第一線でご活躍の先生方にレクチャーをお願いいたしました。レクチャー後の質疑応答では質問の順番待ちに列ができており、非常に活発な議論が行われたと考えています。レクチャー数や時間に関しては例年議論のあるところですが、適切であったと思われます。参加者の方からは、骨をテーマとするレクチャーが多く、もっと広い分野における間葉系のレクチャーを、とのご意見も頂きました。

<一般ポスター演題>

今回は 42 題と例年になく多くのポスター演題をご応募いただきました。その内訳は、今回のテーマに沿うものを含めた実験病理学的研究から、臨床報告まで幅広い分野に及ぶものでした。若手の先生方に参加いただくという点では、幅広い分野からの演題応募が良いのですが、会自体に統一感がなくなるということも示唆されます。しかし、テーマに沿う実験病理学的研究のみにポスター演題の分野を限定すると参加自体が難しくなるという側面もあります。会自体の活性化ということを考えると、若手の先生の参加を促す方がよいと思われませんが、今後の開催方法や会の意義を含めた総合的な議論が必要と思われま

<会場>

六甲山ホテルは酷暑の時期にもかかわらず過ごしやすく、また、ロケーションも抜群で、100 名前後のカンファレンス開催には満足できる規模の施設であったと思います。但し、旧館が閉鎖されているため一部の参加者には近隣のメープル六甲に宿泊いただくという不便をおかけいたしました。また、例年問題になっている相部屋解消には参加費の値上げが不可欠ですが、あまり高すぎると若手参加者の負担になる可能性もあり見送らざるを得ない状況でした。第 10 回から 4 回連続で続いた六甲山ホテルでの開催でしたが、来年度は犬山での開催となります。戦前に花開いた「阪神間モダニズム」を代表する伝統ある六甲山ホテルも経営母体が変わり、大規模改修されるようですが、いつかまた六甲山に戻ってくることができればと願います。



5. 謝辞

今回のカンファレンス開催にあたり、ご支援頂きました日本病理学会に感謝申し上げます。準備に際しては、日本病理学会研究推進委員会、日本病理学会事務局に様々なご助言・ご指導を賜りました。講師の先生方には、多忙なスケジュールの中でカンファレンス日程を通してご参加頂き、貴重なディスカッションや若手研究者に対するアドバイスをして頂き感謝申し上げます。また、横崎宏先生を初めとする神戸大学大学院医学研究科病理学講座の先生方には、運営に当たって大変ご尽力を頂き感謝申し上げます。最後になりますが、本カンファレンスの準備・運営を手伝って下さった、九州大学大学院医学研究院形態機能病理学教室のメンバーに深く感謝致します。

